

平成 20 (2008) 年さけます来遊状況 (第 3 報 : 9 月 30 日現在)

独立行政法人水産総合研究センター
さけますセンター

北海道東部の沿岸及び河川にサケが本格的に回帰し、秋サケ定置漁業が盛漁期を迎えています。これまでのところ前年と比較して来遊量が少ない模様です。

「さけます来遊状況」の第 3 回目として 9 月 30 日現在の北海道のカラフトマス及び秋サケの来遊状況についてお知らせします。

なお、来遊速報の取りまとめにあたり、迅速な情報提供などのご協力を頂いた北海道及び増殖団体の関係者に感謝します。

1 カラフトマス来遊状況

- ・来遊数は 692 万尾 (対前年同期比 47%、平年同期比 70%)
- ・太平洋側で 44 万尾、日本海側で 648 万尾
- ・今年是不漁年に当たり、来遊は昨年と比較して 2 旬程度遅い

(北海道)

北海道のカラフトマス来遊数は 692 万尾(対前年同期比 : 47%、対平年 (平成元 (1989) ~ 19 (2007) 年の平均値) 同期比 : 70%)と大幅に少なくなっています (表 1)。これはカラフトマスが隔年で資源変動する特徴があり (図 1)、今年、平成 20(2008)年がカラフトマスの不漁年に当たるため、同様に不漁年に当たる平成 16(2004)年、平成 18(2006)年と比較すると多く、平成元年以降の不漁年では平成 11(1999)年に次ぐ 4 番目となっています。また、昨年の平成 19 年は、平成元年以降 3 番目の豊漁であったことから、今年のカラフトマスの来遊数が大幅に減少している印象を与えています (表 1 及び図 1)。

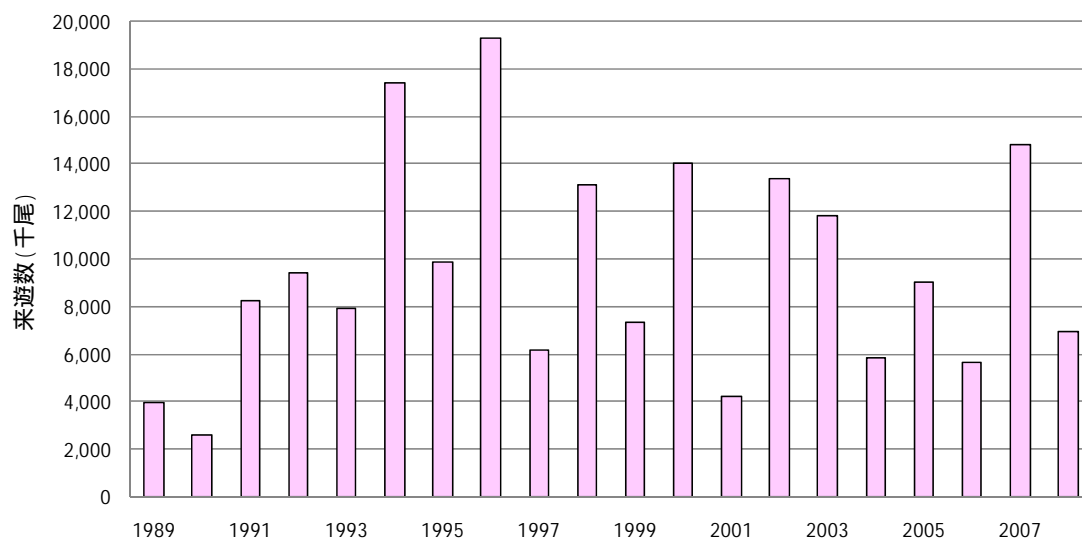
地域別では太平洋 (根室 ~ えりも以西海区、以下同) 岸の地域で 44 万尾 (対前年同期比 : 31%)、日本海 (オホーツク海区及び日本海区、以下同) で 648 万尾 (対前年同期比 : 48%) と、太平洋の地域での減少割合が日本海と比べて大きくなっています。

表1：カラフトマス来遊状況（北海道）

単位：万尾

	来遊数		沿岸漁獲数		河川捕獲数	
	9/30 現在	最終	9/30 現在	最終	8/30 現在	最終
2008 (H20)	692	-	602	-	91	-
2007 (H19)	1,485	1,488	1,344	1,344	141	144
2006 (H18)	553	559	465	465	88	94
2005 (H17)	901	905	815	816	85	89
2004 (H16)	604	606	540	540	64	65
平年	984	996	894	896	90	100

図1 カラフトマス来遊数



注：平成 20(2008)年は 9 月 30 日現在。

一方、来遊ピークは豊漁年には早く、不漁年には遅くなる傾向があり（図2）今年（2008年）は来遊時期が早かった昨年と比較して2旬程度遅れ、8月下旬となっています（図3）。

図2 沿岸漁獲及び河川捕獲の重心

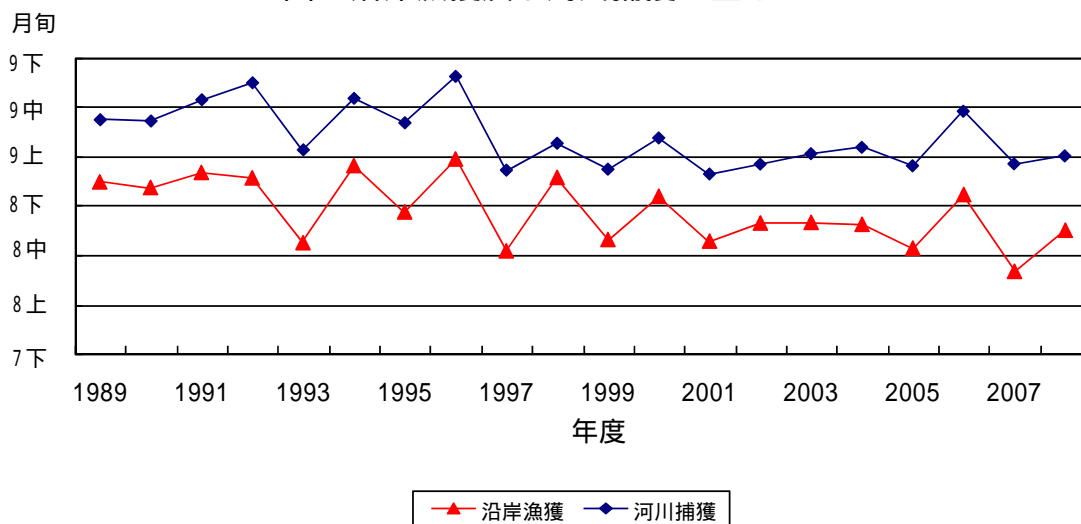


図3 - 1 カラフトマス旬別来遊数

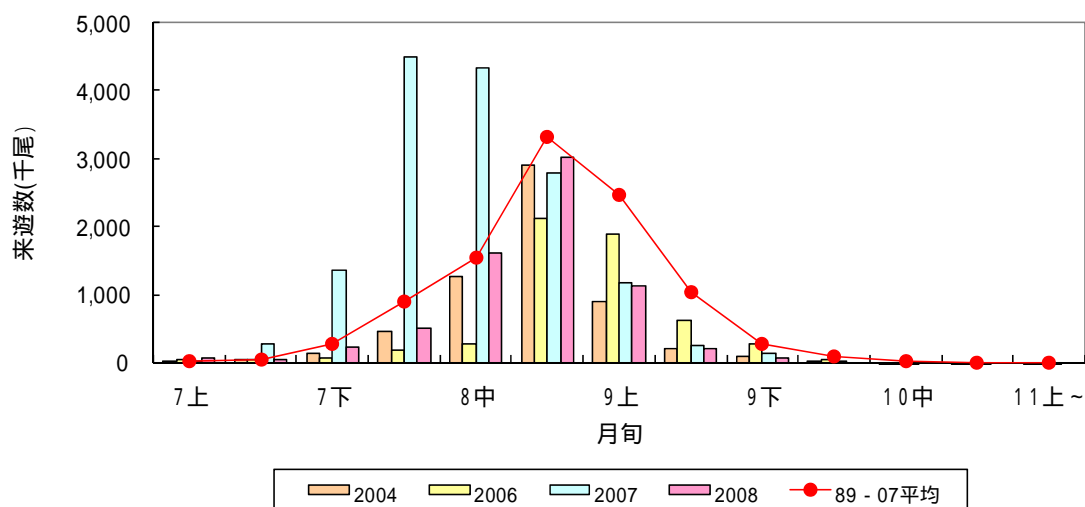
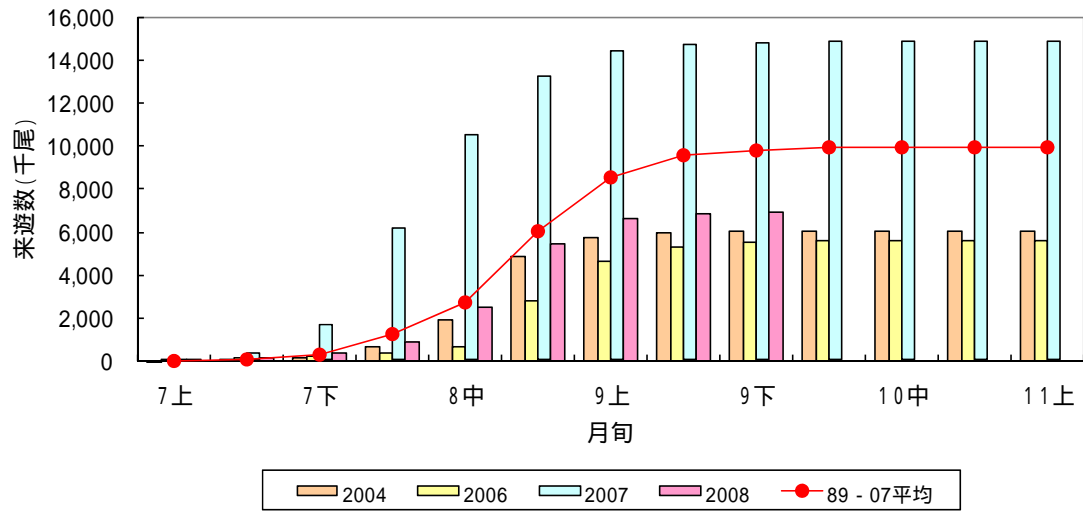


図3 - 2 カラフトマス旬別累積来遊数



カラフトマス河川捕獲数は91万尾（対前年同期比：65%、平年同期比：101%）となっており（表1）沿岸漁業者による自主規制等の親魚確保の対策が行われ、北海道全体ではふ化放流計画に必要な親魚を確保しています。

2 サケ来遊状況

- ・来遊数は1,682万尾（対前年同期比79%、平年同期比68%）と少ない
- ・10月の来遊動向に期待
- ・特に、本州地域は10月以降来遊が本格化

（全国）

平成20年9月30日現在のサケ来遊数（全国の沿岸で漁獲されたサケと河川で人工ふ化放流用に採捕されたサケの合計）は1,682万尾（対前年同期比：79%、平年（平成元（1989）年～19（2007）年の平均、以下同）同期比：68%）と少なくなっています（表1）。

	9/30 現在	最終
2008（H20）	1,682	-
2007（H19）	2,127	6,813
2006（H18）	2,566	6,860
2005（H17）	2,989	7,088
2004（H16）	2,872	7,664
平年	2,475	6,442

（北海道）

北海道のサケ来遊数は1,650万尾（対前年同期比：79%、平年同期比：69%）となっています（表2、図2）。太平洋（根室～えりも以西海区、以下同）岸の地域では886万尾（対前年同期比：78%、対平年同期比：64%）となっています。また、日本海（オホーツク海区及び日本海区、以下同）では765万尾（対前年同期比：82%、対平年同期比：76%）と、いずれも少ない回帰となっています（表2）。

最近の北海道では10月にも平年で1,900万尾程度の来遊があること、9月期の海面水温は平年値より高くサケ親魚が沿岸に寄りづらい環境下にあったこと（6の「北日本の海況」を参照）、10月の来遊主群となる2004年級の中期（2004年10月下旬～11月中旬に採卵受精した種苗）の割合は52%と、前期（2004年10月中旬までに採卵受精した種苗）の割合41%と比較して10%程度多いこと、特に、主産地であるオホーツク海区、根室海区の中期の割合は57%程度と多いことから、10月以降の回帰に期待しているところです。

表 2：北海道のサケ来遊数

単位：万尾

	北海道		北海道太平洋		北海道日本海	
	9/30 現在	最終	9/30 現在	最終	9/30 現在	最終
2008 (H20)	1,650	-	886	-	765	-
2007 (H19)	2,080	5,277	1,142	3,241	938	2,037
2006 (H18)	2,515	5,359	1,114	2,807	1,401	2,553
2005 (H17)	2,920	5,641	1,393	3,144	1,527	2,497
2004 (H16)	2,808	6,049	1,485	3,322	1,323	2,728
平年	2,379	4,745	1,376	2,883	1,003	1,863

図1-1 旬別サケ来遊数(北海道)

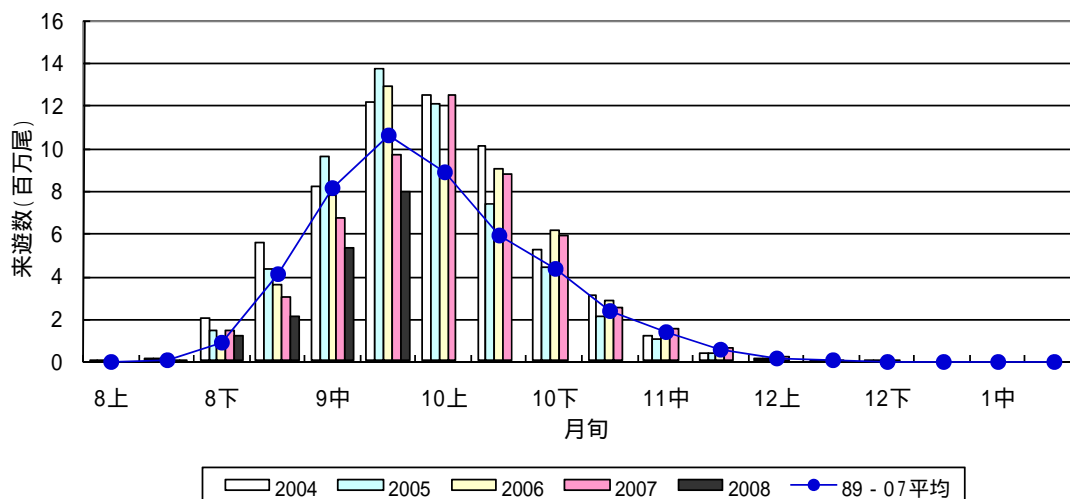
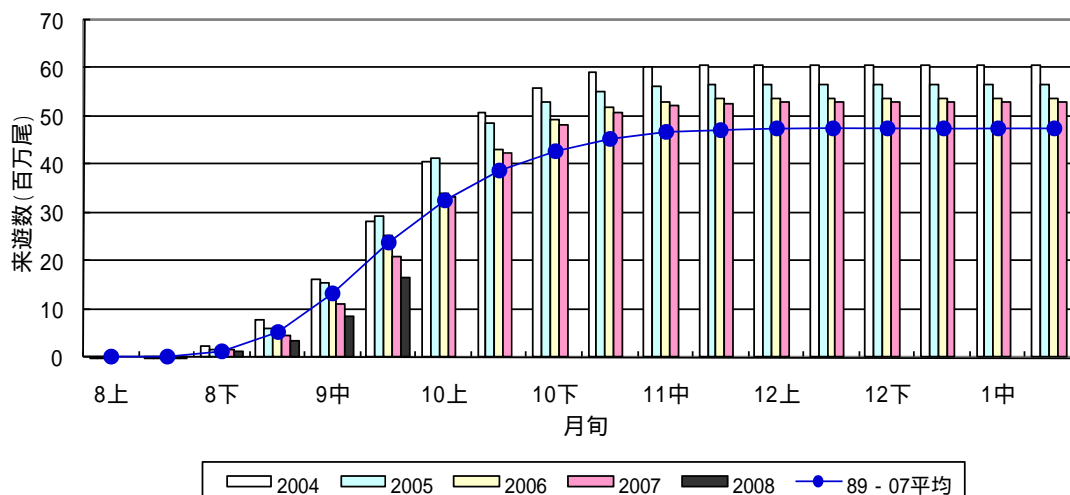


図1-2 サケ来遊数(累計:北海道)



(本州)

本州のサケの来遊は主に太平洋（竜飛岬から東の青森県～茨城県）側の地域を中心に 32 万尾（対前年同期比：67%、平年同期比：41%）と減少しており、北海道と同様の傾向となっていますが、本州では 10 月以降来遊が本格化しますので今後の動向に注目したいと思います。

表 3：本州のサケ来遊数

単位：万尾

	本 州		本州太平洋		本州日本海	
	9/30 現在	最終	9/30 現在	最終	9/30 現在	最終
2008 (H20)	32	-	32	-	0	-
2007 (H19)	48	1,535	48	1,444	0	91
2006 (H18)	53	1,472	52	1,348	0	125
2005 (H17)	69	1,447	68	1,328	1	119
2004 (H16)	64	1,614	64	1,483	1	131
平年	78	1,715	76	1,640	1	75

3 サケ河川捕獲状況

- ・9月の北海道の記録的な少雨の影響を受け、河川捕獲数は64万尾（対前年同期比63%、平年同期比57%）と少ない
- ・親魚確保のため北海道では漁業者の自主規制等を実施
- ・1億16百万粒（対前年同期比84%）の種卵を確保

（全国）

平成20年9月30日現在のサケ河川捕獲数（全国の河川で人工ふ化放流用に採捕されたサケ数）は64万尾（対前年同期比：63%、平年同期比：57%）と少なくなっています（表4）が、沿岸来遊が思わしくない状況下、漁業関係者や民間増殖関係者が人工ふ化放流に必要な種卵の確保に努めており、採卵数では1億16百万粒（対前年同期比：84%）となっています。

表4：全国のサケ河川捕獲数

	河川捕獲数（万尾）	
	9/30 現在	最終
2008（H20）	64	-
2007（H19）	101	591
2006（H18）	134	647
2005（H17）	133	644
2004（H16）	178	742
平年	113	486

（北海道）

北海道の河川捕獲数は61万尾（対前年同期比：63%、平年同期比：58%）と大幅に少なくなっています（表5）。太平洋側の地域では31万尾（対前年同期比：84%、対平年同期比：62%）、日本海側の地域では29万尾（対前年同期比で48%、対平年同期比で52%）といずれの地域も前年値、平年値と比較して少なくなっています。また、来遊数の減少が対前年同期比で79%、平年同期比で69%であるのと比較しても少なくなっています。9月期の河川そ上率（河川捕獲数／来遊数）は平年で4.5%程度であるのに対して、今年は上旬で5.5%と平年を上回りましたが、それ以降は中旬3.5%、下旬2.8%と大幅に下回っています。

日本気象協会北海道支社の発表によると9月の道内22か所の観測地点の降雨量はいずれも平年値を下回り、函館、室蘭、札幌では観測史上最少、苫小牧でも史上2番目に少ない記録であったとのことであり、降雨による河川増水がなく親魚のそ上行動を誘発できないことが要因と考えられます。

このような状況を受け、各地域とも定置漁業等の自主規制の実施又は実施を予定しており、人工ふ化放流に必要な種卵の確保に向けた努力をしているところです。

表5：北海道のサケ河川捕獲数

単位：万尾

	北海道		北海道太平洋		北海道日本海	
	9/30 現在	最終	9/30 現在	最終	9/30 現在	最終
2008 (H20)	61	-	31	-	29	
2007 (H19)	97	326	37	155	60	171
2006 (H18)	132	378	40	163	92	215
2005 (H17)	124	385	34	152	90	233
2004 (H16)	172	498	66	180	106	318
平年	106	315	50	150	56	165

図2-1 旬別河川捕獲数(北海道)

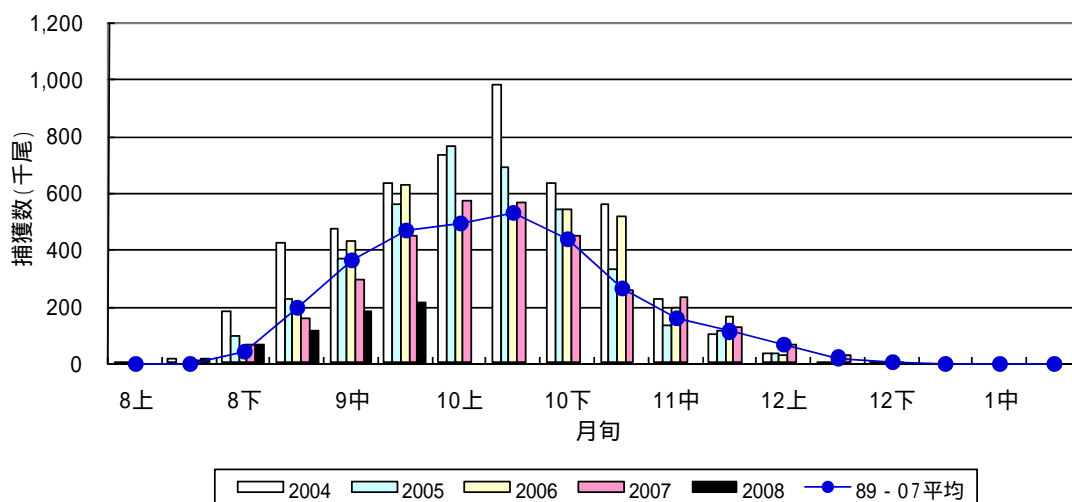
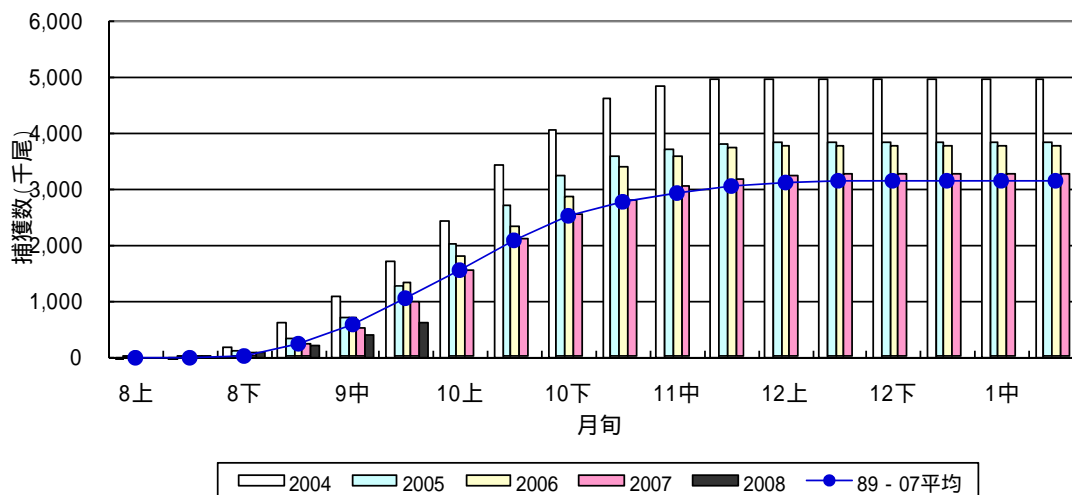


図2-2 旬別河川捕獲数(累積:北海道)



(本州)

本州の河川捕獲状況は以下のとおりです(表6)。

表6：本州のサケ河川捕獲数 単位：万尾

	本 州		本州太平洋		本州日本海	
	9/30 現在	最終	9/30 現在	最終	9/30 現在	最終
2008 (H20)	3	-	3	-	0	-
2007 (H19)	4	265	4	219	0	45
2006 (H18)	6	240	6	185	0	84
2005 (H17)	9	259	9	206	0	53
2004 (H16)	6	244	5	182	0	62
平年	6	175	6	141	0	33

4 サケの年齢構成

- ・ 9 月末現在、例年に比べ 4 年魚（2004 年級）の来遊数が少ない
- ・ ただし、10 月以降 3 年魚、4 年魚の割合が高くなる見込み

9 月下旬までに北海道立水産孵化場とさけますセンターが北海道の河川に回帰したサケの年齢構成を調査した結果によると、例年に比べ今年（生まれ年が平成 16（2004）年）の来遊数が少なくなっています（図 3,4）。

ただし、河川に回帰したサケの年齢組成を調査した結果では、5 年魚や 6 年魚は早い時期に回帰し、3 年魚や 4 年魚は時期が進むにつれて比率が高くなっていく傾向があります（図 5）ので 10 月以降の回帰動向を見守る必要があります。

図 3 9 月末時点でのサケ年齢別来遊数の推移（北海道）

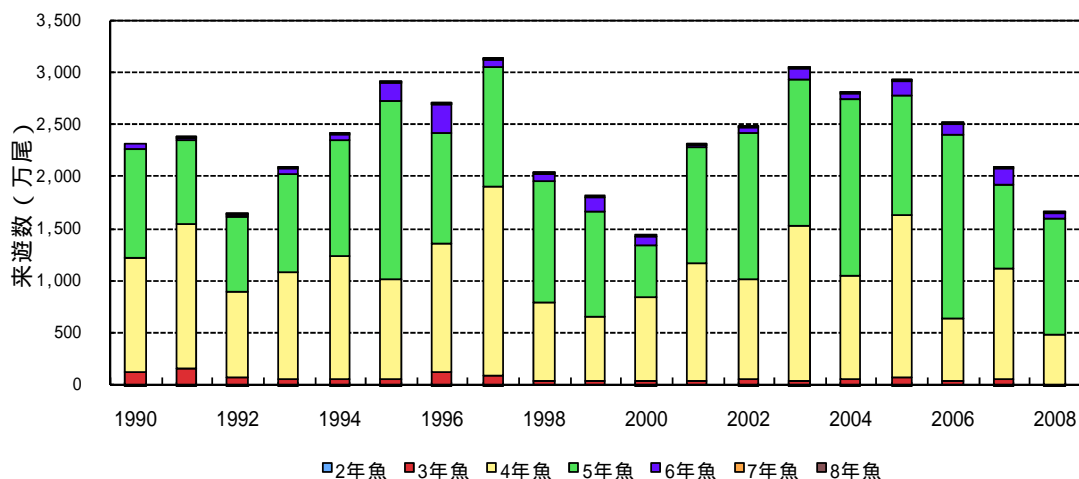


図 4 9 月末時点でのサケ年級別来遊数の推移（北海道）

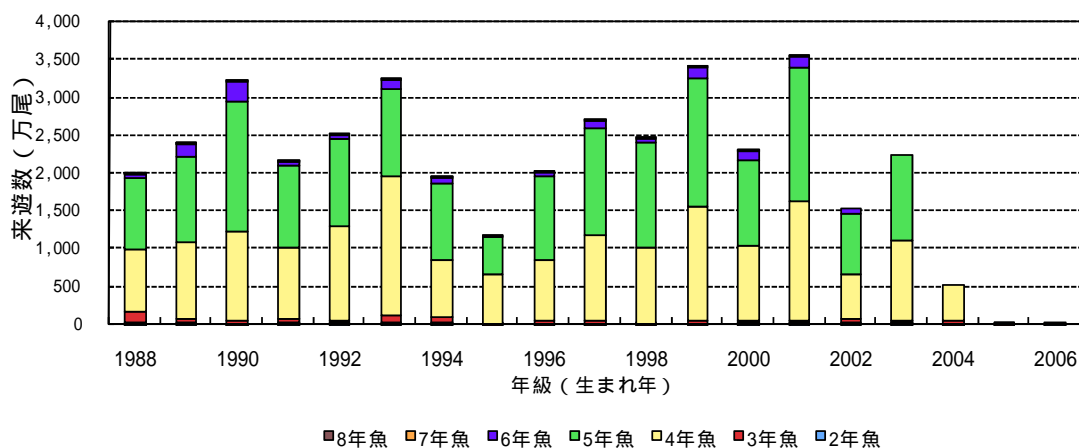
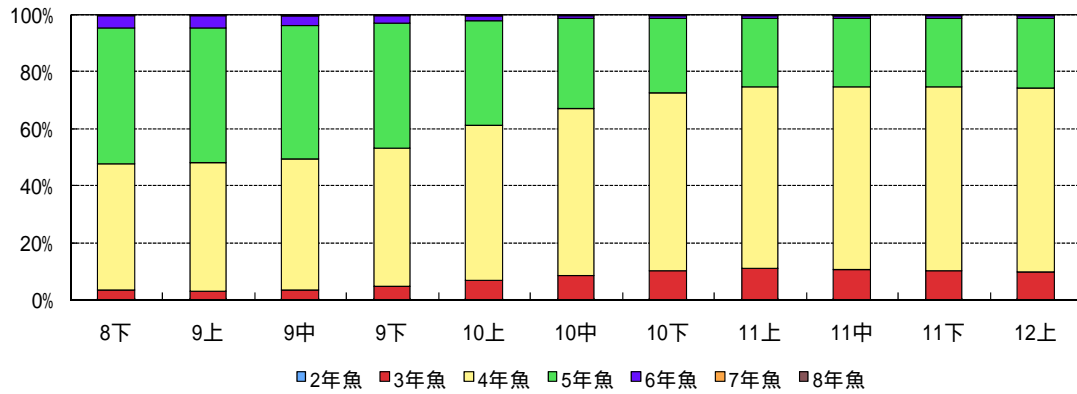


図5 北海道の河川にそしたサケの旬別年齢割合（1989～2006年平均）



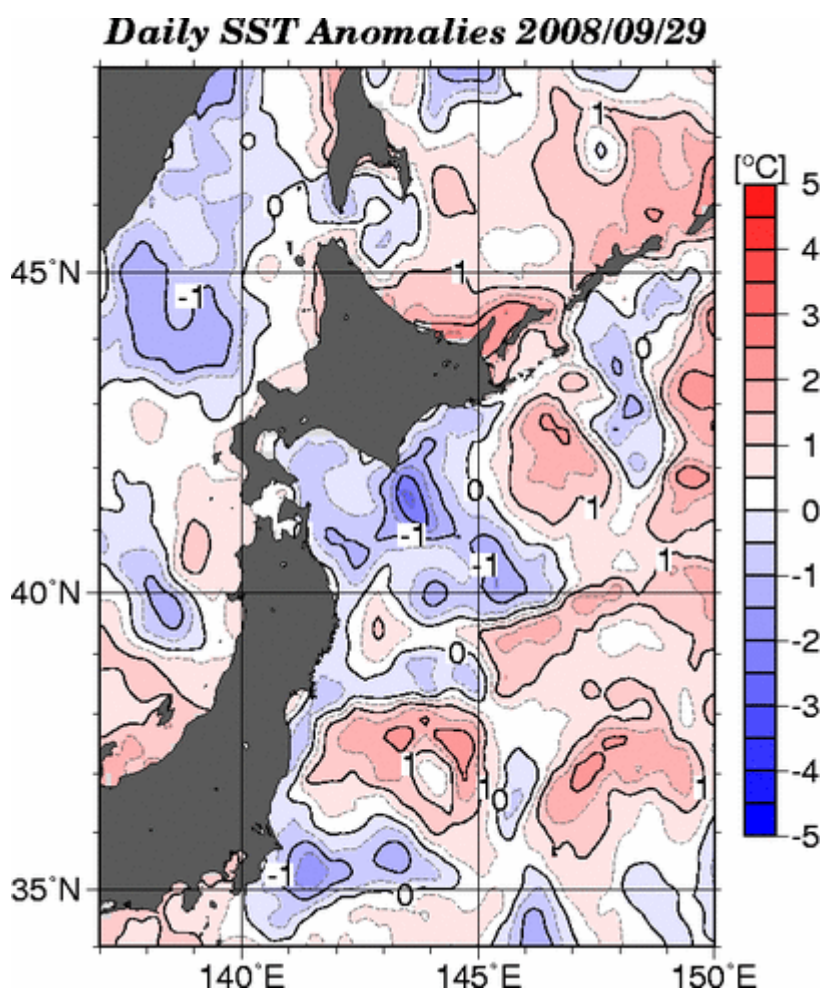
5 サケの体サイズ

・目廻りは前年並み

サケの漁獲数と漁獲量から求めた1尾当たりの平均体重は、北海道で3.45kg（前年同期3.40kg）、本州で3.09kg（前年同期2.94kg）と9月30日現在ではほぼ前年と同様となっています。

6 北日本の海況

函館海洋気象台 HP (<http://www.hakodate-jma.go.jp/>) の「北日本沿岸域の詳細な海面水温の状況」によると、8月中・下旬に平年より低かった北海道及び東北各地区の海面水温は、岩手県以南を除き 9 月に入り平年より高く、特に、北海道東部地域では顕著に高くなっています。9 月下旬に入り水温は低下し、気象庁の 9 月 29 日現在の海況情報では、北海道西方と日高沖では平年より低い海域がみられますが、日本東方海域とオホーツク海南部では平年より高い海域が依然として広がっています。なお、気象庁による今後 1 ヶ月間の予報では、日本東方海域および日本海北部の海面水温は、平年並の状態が続く見込みで、北海道南方では、海面水温が平年より低い状態が続くとのことです。



なお、水産総合研究センターの「太平洋および我が国周辺の海況予測モデル (FRA-JCOPE)」、「日本海海況予測モデル (JADE)」では、北海道・東北ブロックおよび日本海の手海況と 2 ヶ月間の予測を公開しており、一般の方も次の内容をご覧いただけます。

